



## 北海道がんセンターの場合

北海道がんセンター地域医療連携システム(ID-Link)

地域医療連携室

係長 菊地 久美子  
室長 加藤 秀則

### ① 立ち上げの動機

平成23年、前院長ががん診療の連携が必要であるとの判断から、「地域医療再生基金」という補助金を付けてもらい、ネットワーク(ID-Link)を整備した。この時、前院長が文書で声掛けし、同様の補助金申請を小樽市立病院・KKR医療センター・天使病院・王子総合病院・苫小牧市立病院などで行った。この時接続したのは小樽のみで、実績もゼロだった。がん診療上専門的治療を行う病院同士が情報を共有する必要性は低く、また医師からあまり必要とされないシステムだった。患者に同意書の取得を求めることも一因だったらしい。

同年4月16日(土)に院内説明会を実施。言い出した前院長が、自らは使わない方針であり、院内の医師は「何に使うのか?」と消極的な発言が多く、循環器医師も心電図やエコーがないと使い物にはならないと否定的で、利用方法すら討議されない状況だった。

このままでは補助金で整備したが道から返還を求められる可能性が高かったため、補助金で一緒に手あげした医療機関と接続し、実績報告を作る必要があった。

その後、残りの5医療機関と接続申請を提出した。

平成25年、保健所の立ち入り検査のため、院長の患者で1件接続した(市立函館病院)のをはじめとして、いくつかの科で使用されてきた。

### ② システムの構成

ID-Linkは「データリンク型」と形容されている。函館のセンターには名寄せの情報、各施設のID-Linkの公開サーバーには、診療情報が保存されている。

### ③ セキュリティ

指標となる基準として厚労省の「医療情報システムの安全管理に関するガイドライン4.3版」に準拠している。センターの接続方式として、情報公開施設はIPsec+IKEにて暗号化、情報参照施設はIPsec+IKE(オンデマンドVPN)もしくは証明書によりSSL/TLS認証接続を行っている。

過去に、SSLはガイドラインでグレーの判定をされてきたが、上記ガイドラインのQ&AでSSL接続

方式の認証も認める方針の記載がある。

### ④ 情報共有の範囲

画像・処方・検査データ・注射

### ⑤ 費用と資金繰り

平成23年、初期費用として道の補助金(12,500,000) + 当院の持ち出し(2,492,635) = 14,992,635で整備。平成24年補助金(525,000) + 自己資金(615,300) = 1,140,300/年 = 保守料(消費税5%) (2年間のみ補助金あり)。平成25年以降(消費税8%)は1,172,880/年 = 保守料。

設備更新時には病院として継続であれば自己資金でまかなうしかないかもしれないが、資金計画は決まっていない。

### ⑥ 規模・範囲

- ・参加医療機関数5(市立函館病院・天使病院・小樽市立病院・市立釧路総合病院・苫小牧市立病院)
- ・他職種連携…なし
- ・利用状況(多い診療科=呼吸器外科15件、整形6件、乳腺外科・血液内科5件、呼吸器内科3件、泌尿器科・婦人科2件)

### ⑦ 評価

<利点>

小樽市立病院とは肺がんのOP依頼のため、かなりの頻度で連携している。患者の受診がなくても、小樽でOPするか? 当院で行うか? のやり取りをしている。

<デメリット>

整形外科医師から「MRIの画像が見にくい」「見るのに時間がかかる」などの意見あり。

### ⑧ 課題

すべての科の医師に周知されておらず、病院全体としての取り組みが必要であること。

### ⑨ 改善点

コーディネーター(菊地)の事務作業が煩雑なので、専任者が必要。今後病院として、どういう運用をしていきたいのかにより、検討の余地がある。

### ⑩ 要望

やはり保険点数の付与により、維持費・人件費を補助できること。